

今に伝わる地域の伝説

おうせ ちょうじゃ 王瀬の長者

沼垂が王瀬にあった頃、王瀬の長者という豪族が住んでいました。住まいはお城のように、屋敷の木戸(城の門)があった所は今の上木戸、中木戸、下木戸、山木戸であり、長者がボタンを植えた場所が牡丹山、フジを植えて花見をした所が藤見という地名となったそうです。

沼垂は、信濃川と阿賀野川が合流して日本海に注ぐ地で、そこには大助小助という夫婦の大きな鮭が住んでいました。11月15日は水神の日で、その大助小助が信州(長野県)の戸隠神社へ参詣するので、漁をしないと決めていました。

長者はそれが気に入らず、ある年大助小助を捕らえようと網をいれました。しかし鮭は一匹もかかりませんでした。それからまもなく、長者家では災難が続き、ついに没落してしまったということです。沼垂の法光院には、王瀬長者の供養塔と呼ばれる石塔があります。



▲王瀬長者供養塔

いざいけ 伊三池

伊三池は、山木戸と牡丹山の境、新発田街道の横にあった大きな池です。ある時、山木戸の善兵衛家の伊三という人が、裸馬に乗って通りかかったところ、馬が何か

に驚き、突然池の中へ飛び込んでしまいました。馬は泳いで岸に上がりましたが、伊三は、おぼれ死んでしまいました。伊三は池の主の蛇に見込まれたのだといいます。

あわれに思った人が、池の脇に墓を建ててあげました。墓はその後、一日市の日照寺へ移されました。

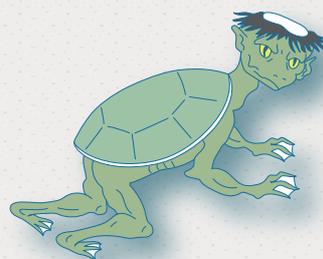


▲伊三の墓(一日市日照寺)

かんのじょう きずぐすり 勘之丞の傷薬

海老ヶ瀬の勘之丞という人が、馬の体を洗ってやろうと池で水浴びをさせていたところ、馬の尻尾にカッパが付いていました。生け捕りにしようとしたのですが、カッパは命乞いをして、「秘伝の薬を

教えるので助けてほしい」と頼みました。勘之丞は、カッパを助けて薬の製法を教えてもらいました。カッパ秘伝の傷薬「あいす」が、紺屋の勘之丞家に伝わることになりました。



さん お三ギツネ

お三ギツネは河渡の松林の中に住んでいました。ある年の真夜中、新潟代官お抱えの医師の所へ使者が来て言うには、奥方が産気付いたが、難産なので急いで来て欲しいとのことでした。医師は大急ぎで助手と共に出かけました。大変な難産でしたが、医師の力で無事

に出産しました。医師と助手は、多額の謝礼をもらって帰りました。翌朝、医師が昨夜の出産に用いた服を見ると、一面に動物の毛が付いていました。不審に思い、代官所に昨夜のことを聞いてみると、そんな事はないという返事でした。

四・五日たってから、近くの

松林のキツネ穴付近で医師のタバコ道具を拾ったと、届けに来た人がいました。医師はそこで初めて、お三ギツネの仕業だったことに気がきました。さては、出産のお礼のお金も、石か木の葉では・・・と、確かめてみると、お金だけは本物でした。

